

地域コミュニティ検討委員会への意見書

令和7（2025）年5月19日

2025年度上期、港区で開催される「地域コミュニティ検討委員会」の開催の趣旨は、区内にはマンションが増加を続け、新たな住民が増えたことで、従来の町会・自治会を中心とした地域コミュニティにさまざまな課題が生じていることを直視し、解決にむけて、課題を整理し、従来の制度の見直しをすることと理解しています。

過日、港区から回答を求められた、マンションと町会の関係に関するアンケートに、私たちはとても勇気づけられました。港区は私たちが抱える問題解決に取り組んでくれるのではないかと思い、勇んでアンケートに答えました。そして、検討委員会が開かれることを知りました。私たちが、町会の活動に際し感じていることや、考えていることを、是非、検討委員会の方々には理解していただきと思い、この意見書を出すこととしました。

南麻布新堀会は、小さな町会ですが、月に1回の理事会、年に1回のお祭り、総会の開催のほか、新年会、掲示板掃除、交通安全運動、防災訓練、年末の夜警などを、年中行事として続けています。このほか、社会を明るくする運動や、更生保護運動、清掃協力会の活動にも参加しています。

町内に十数箇所ある掲示板には、港区などから配布された印刷物を手分けして、何をどう張ったよいかなど考えながら、掲示しています。ホームページを設け、配布物のほとんどに見出しとアイコンをつけてアップしています。防犯カメラを複数設置し、モニター用のパソコンを用意し、警察に協力できる態勢を取っています。新しいマンションが建つときには、解体工事の段階から説明会を求め、工事協定書を結んでいます。防災倉庫には、非常用の発電機や消防用のD級ポンプなどを備え、維持管理しています。

なぜ、こうしたことをボランティアで、やっているのか、折に触れて話し合っています。そもそも、なぜ、町会をやっているか。その最終的な目的は、地域の親睦を深めることで、「おはようございます」「こんにちは」「お疲れ様です」「お元気ですか」などと気軽に声を掛け合う、安全で安心な町をつくることです。それが、災害時のセーフティーネットとなることだと、確認しています。

しかし、町会に入っていないマンションが増えつつあります。あるいはいったん入っていても「意味がない」と脱退したケースもあります。

なんとか、人の輪を広げていきたいと、お祭りや夜警の際、広く参加を呼び掛けています。しかし、運営側に立たされると、準備や後片付けもあります。お祭りにきていただくことは本当にありがたいのですが、楽しいことだけを消費する「フリーライダー」の存在が気になります。配布物の掲示やHPの作業をやっていると、行政の下請けをやっているな、と実感します。防犯カメラの運用も同様です。

町会役員は、防災資源の保管場所を知り、防災のノウハウを持っていますが、著しい「偏り」が生じています。このことは、災害時には、知識を持った人に仕事が集中し、初期対応がうまく機能しないことにもつながります。